

# 茜の空



令和 4年 6月15日  
練馬区立石神井南中学校  
学校便り 6月号

## 第60回運動会を終えて

副校長 今井 康夫

6月4日（土）、初夏のさわやかな青空の下、第60回運動会が無事開催されました。開会式では選手を代表して八方君、園田さんが選手宣誓を行いました。堂々と一点を見つめた迷いのない表情、校庭いっぱいに響きわたる大きな声、会に臨む決意が伝わり、会の成功を予感させるものでした。

実際、生徒は一人一人がどの種目にも一生懸命に競技しました。生徒席や係席からは、クラスメイトを応援する声が絶えず聞こえました。勝った喜びや、負けた悔しさなど、様々な感情を分かち合う中で、互いの立場を理解し尊重する経験もできたと思います。まさに、スローガン「輝け青春～悔いのない思い出を～」を体現できたのではないかと思います。

ところで私事ですが、私は群馬県の小さな村で生まれ育ちました。自分が経験してきた運動会は、幼稚園から小・中学校、さらには青年団や消防団などが一堂に集う村をあげての一大イベントでした。各学校・園の競技や発表だけでなく、大人のリレーや地区ごとの踊りなどもありました。そんな中、思い出深い出来事があります。小学生から大人までがバトンを繋いで競い合うリレー種目に出場した私は、第1コーナーで転倒しました。私の後を追う走者は友達のお父さんでした。「抜かれた」と思った瞬間、そのお父さんは私が起き上がるのを助けてくれたのです。一瞬の出来事でした。転んだ恥ずかしさもありましたが、それよりも地域の大人の優しさを感じた出来事でした。人口二千人弱の小さな村だからかもしれませんが、そのような人間関係・安心感を基に、地域の人と日常的に会話があり、時には叱られながら、育ててもらいました。

今年の運動会も、感染状況と本校校庭の広さ、プログラム等を総合的に勘案して、保護者や地域の皆様に校庭で観戦していただくことを断腸の思いで断念いたしました。その代わりに、3年生の保護者には教室でライブ映像をご覧いただきました。そのためボランティアを募ったところ、すぐにたくさんの方々から御協力のお申し出をいただきました。申し訳ない気持ちとともに、その温かさに胸が熱くなりました。皆様の御協力に改めて感謝申し上げます。保護者や地域の皆様に間近で生徒の活動をお見せして、学校と保護者・地域の関係を深めていける日が早く来ることを願っています。

最後に会の成功のため尽力してくれた実行委員の皆さん、責任をもって役目を果たしてくれた各係の皆さん、そしてリーダーに協力した全ての皆さん、それぞれが人知れず頑張っていて、我慢して、譲り合っていて得られた成功です。その頑張りに拍手を送ります。

生徒の皆さんは、自分のもてる力を精一杯発揮し、充実感を味わったことでしょう。それを改めて振り返ったとき、サポートしてくれた周りの方々の存在に気づき、感謝の気持ちを抱いたならば、それは大きな成長ですね。さらにその気持ちを表せた人は、立派です。



標題のイメージ画は、3年2組 中島ちひろさんの作品です。

## 「輝け青春～悔いのない思い出を～」

保健体育科 本橋 孝治

5月16日(月)、校舎に第60回運動会スローガンが掲げられ、全校練習が始まりました。

3年生の実行委員が司会をし、全校生徒に行進やラジオ体操のアドバイスをしながら、進行しました。指先の伸ばし具合や腕を上げる角度、ジャンプのタイミングにまでこだわる石南中生は、目の付け所が違います。

翌日には、1年生の学年練習がありました。3年生を見習って自分たちだけで進めていこうとする姿勢が印象的でした。

「上級生の主体的な行動が、下級生の主体性を生む」という石南中の伝統を目の当たりにした瞬間です。

運動会練習が2週間経った全校練習の振り返りで、実行委員が「週末で疲れが溜まっていますが、頑張っている様子が見られて嬉しかった」と、自分も、仲間も励ます言葉を掛けていました。運動会を成功させようとする思いと仲間を大切にしている優しさを感じました。

運動会当日、日焼けした生徒たちの全体演技は圧巻でした。何度も練習を重ね、全員で意識してきたことが見事につながりました。そして、仲間同士や先輩・後輩への応援は、石南中の一体感を高めていました。

行事は自分たちの手で作りあげていきます。新しいクラスになって2ヶ月、期待と不安の中での初めての全校行事は、2022年度の輝かしいスタートとなりました。

主体的な行動は、どんな困難をも乗り越える力となるでしょう。私たちの乗る船が嵐に遭遇した時は、コウカイせず、碇を下ろして、考え、判断することが重要ですね。



## 運動会の様子を紹介します





## 先生方の座右の銘を紹介します

4月に生徒会主催で行われた対面式で、1年生に向けて発表した教員一人一人の「座右の銘」。せっかくなので、今年度からそれらを定期的に入れ替えながら、2つずつ校内に掲示しています。

学校だよりでも、今回から少しずつ紹介していきます。

### 情けは人の為ならず

1学年 遠藤 岳朗

あれは、忘れもしない中学校3年生の時です。友達が英語の時間に質問され、自分に助け船を出してきたのです。その時、自分は友達に向かって「情けは人の為ならず」と発したのです。すると、担任だった英語の先生が「たくろう(当時のニックネーム)君は、その意味分かって使ってるの?」と言ってきたのです。自分は、すかさず「先生、人を甘やかすと、その人の為にならないと言う意味です」と、自信をもって言い返しました。しかし、返ってきた答えは、「違う…困った人を助けると言う事は、いつの日か巡り巡って、自分が困った時に、人に助けてもらえると言う事よ」でした。まさに、目から鱗が落ちる思いでした。まさか、そんな意味が込められていたとは、全く知る由もなかったのです。そして、同時に今まで自分がやってきた行為は、間違っていたんだと痛感することになりました。

それからです、困った人には積極的に手を差し伸べようと決心し、高校生の3年間の週末は、地元の障害福祉センターでボランティア活動に没頭しました。

あのときの出来事が、自分の人生を大きく変えたのです。

皆さんは、そんな経験ありませんか?

## 時は命なり

2 学年 田川 慎

「時は金なり」ということわざを知っていますか？誰もが一度は耳にしたことがありますよね。「時間はお金と同じく貴重なものなので、浪費することなく、有意義に使うことが大切である」という意味です。これは、英語の「Time is Money」が語源とされています。英語では「機会損失」の意味が強く、日本語とは少し捉え方が違うようです。

時間は、人によって変わるものではなく、平等に1日24時間与えられています。しかし、命の長さは人によって変わります。時間をどのように使うかはその人によって異なりますが、命を無駄にすることは決してあってはならないことです。

いつの日からか、「自分の大切な命だからこそ今を楽しもう」と思うようになりました。そして、「自分のために時間を使ってきている＝自分のために命を使ってきている」と思うようになりました。ここから、「時は命なり」が誕生しました。

私は何歳まで生きられるかわかりません。でも1日24時間は決まっています。その時間、その命を無駄にしないように大切にしていきながら「今」を楽しんで過ごしていこうと思っています。

## 自分に限界をつくるな

3 学年 本橋 孝治

学生時代、何度も繰り返し読んでいた漫画で、日々鍛錬をしている主人公が、己の弱さを知り、気を落としているときに、師匠から言われた一言です。

私が高校生のとき、朝から晩までひたすらスポーツに打ち込んでいました。大会で満足のいく結果が出たこともありました。しかし、卒業文集に「後悔するくらいなら、努力をしろ」と書いたのを覚えています。「まだ、できることがあった」それが、18年生きてきた私に言いたかったことだと思います。それからは、自分に自信をもって、できる限りの努力をしています。自分の可能性を広げるために、「根拠のない自信」でいいのです。とにかく実践することで、見えてくる世界があるかもしれません。そして、自分を好きになれるかもしれません。

思考に気をつけなさい。それはいつか言葉になるから。  
言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから。  
行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから。  
習慣に気をつけなさい。それはいつか性格になるから。  
性格に気をつけなさい。それはいつか運命になるから。

3 学年 井口 未来

マザーテレサの言葉です。『思考を変えられれば、運命は変わる』という過程を、具体的に記した言葉です。私は小学生の時に「学校の先生になりたい」という夢を抱いたのですが、そのためには大学へ進学しなくてはならないと知り、絶望しました。私は子供の頃、家庭が貧しかったため、大学へ行くということが難しいと知っていたからです。そんなとき、図書館の本でこの言葉に出会い、思考を変えることにしたのです。結局、大学を卒業してすぐ、民間企業に就職しましたが、30代になり、再度夢にチャレンジし、今の自分に至ります。

自分に希望を持ち、行動すること。それが例え違う結果になってもいつか叶うと信じ行動した結果、何らかの形で夢は叶います。皆さんも同じです。私が証明します。そしてそのことを伝えることが私の仕事なのだと思う、日々過ごしています。